
さざんか流星群

真黒くろすけ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

さざんか流星群

【Nコード】

N6523K

【作者名】

真黒くろすけ

【あらすじ】

お爺さんと青年。ちょっとした日々。

(前書)

2017.12.20

何もする気が起きない朝はとりあえず外へ出る。

10年前に引越してきたからだいぶ変わった風景だが、それでもここの雰囲気は相変わらずあか抜けないと言つ。

「ただ地面に根ばかり広げる雑草のような……」

というのは隣に住む一人暮らしのお爺さんの弁だ。

僕が引越してきたころからずっと近所の子どものカミナリオヤジを務めてきた彼だが、近頃では家にこもりがちで趣味の盆栽もほったらかし、何段かもってるらしい囲碁も長いこと手をつけてないといつ。

教職に就いていた彼のもとにはときたま教え子らしい人たちが訪ねてきて、その日だけは彼の若さが噴出するらしく、あくる日の二日酔いの看病として僕がよく駆り出された。

「あいつらは悪かった。殺してやるうかと思つたこともあつた」

看病といつても彼の思い出話の聞き手になるだけだが、その時の彼はことさら目を細めて親愛の悪態をついた。

低気圧が彼の機嫌を損ねるときには僕は行きたくない。そんなときはちょっと駅のほうまで繰り出して土産に和菓子を買ってくる。かわいいカップに入った草もちとかひよこ型の練り物なんか彼のお気に入り、その険しい目つきにはたいそう不釣り合いな趣味をしている。

「勉強はしてるのか？」

「しますよ」

「そんなものやめなさい」

彼が偏屈なのはもちろんわかっているが、一応理由も聞いておく。
「勉強ができた生徒でおれの家を訪ねてきたやつはほとんどいないよ。訪ねてくるのはかわいい馬鹿ばかりだ」
「でも頭のいい人もいないと困るでしょう」
「みんな馬鹿で優しければ平和だわい」

彼の体が弱りかけてきたときも僕はそばにいた。布団に寝たまま目も開けずに彼は言う。

「何をしている」

「何か用事があれば僕が」

「そんなことより勉強せい」

こんなやりとりも、嫌いじゃない。

「この間は勉強するなと聞きましたか」

彼は咳払いをし、しばらく黙っていた。

「お前は勉強しなさい」

彼の葬式にはもちろん大勢の人が来たが、泣いている人は少なかった。
つた。

僕も泣かなかった。

今日も少し変わった近所の空気を吸いに散歩に出かける。

(後書き)

またね

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6523k/>

さざんか流星群

2011年10月6日23時00分発行